

## 立川市第4次文化振興計画 令和6年度の主な取組状況

### I ふれる、たのしむ～暮らしの中に文化芸術を感じることでできる環境をつくる～

市民の文化活動が活発化し、継続できる環境づくりを進めるとともに、鑑賞者として、暮らしの中で自然の文化芸術に触れ、楽しむことができるよう取り組みます。

#### 1. 文化芸術の活動やイベントの充実

##### ①市民の文化芸術活動支援 【重点取組事項】

###### ■市民文化祭

- ・立川市文化協会が、立川市民文化祭として令和6年9月から令和7年3月にかけて各種文化団体による公演や展示事業及び地域文化祭を、たましん RISURU ホール、女性総合センター・アイム、地域学習館などで開催しました。また、各団体の日ごろの活動成果を披露する場として、「市民文化フェスティバル」を開催しました。

###### ■地域学習館まつり

- ・社会教育関係団体等の発表・交流の場として、工事のため休館している砂川学習館を除く5館の地域学習館で「地域学習館まつり」を開催しました。

###### ■アール・ブリュット立川

- ・作品展「アール・ブリュット立川 10<sup>th</sup> Anniversary」

活動の開始から10周年を迎えたアール・ブリュット立川実行委員会が、国営昭和記念公園 花みどり文化センターにて1/17（金）～2/11（火・祝）に作品展を開催しました。会期中にはアール・ブリュット作家によるアートパフォーマンスなども行われました。

## ②文化芸術イベントの開催

### ■立川いったい音楽まつり

- ・ 5/18（土）・19（日）に、市内 11 カ所をイベント会場として開催された第 13 回立川いったい音楽まつりには、220 団体の参加があり、25,000 人が来場しました。
- ・ 5/12（日）には、たましん RISURU ホール（立川市市民会館）でアメリカ空軍太平洋音楽隊 Pacific Showcase によるプレライブを開催しました。

### ■立川市民オペラ

- ・「立川市民オペラ 2025 プッチーニ作曲 歌劇『ラ・ボエーム』」を 3/22（土）・23（日）に行いました。演奏は TAMA21 交響楽団で、オーディションで選ばれたソリストとともに、市民オペラ合唱団や児童合唱団が出演するほか、助演などでも多くの市民が関わりました。

### ■立川市地域文化振興財団の鑑賞事業・普及事業

- ・立川市地域文化振興財団（以下、「財団」と表記します。）が、鑑賞事業としてたましん RISURU ホール（立川市市民会館）で、クラシックや古典芸能、演劇ミュージカルなどの公演を実施するとともに、普及事業として学習等供用施設や児童館など市内各所で、落語や音楽などの公演を行いました。

### ■立川シアタープロジェクト

- ・市は、財団、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン（たちかわ創造舎）と実行委員会形式により、地域の劇場文化の活性化や人材育成及び立川からの演劇文化の発信を目指し、平成 28 年度に「立川シアタープロジェクト」を立ち上げました。
- ・子どもとおとなが一緒に楽しむ舞台  
令和 6 年度は、クリスマスシーズンに演劇を市民に届ける「子どもとおとなが一緒に楽しむ舞台」の vol. 8 として、12/20（金）～22（日）にたましん RISURU ホール（立川市市民会館）の小ホールにて、立川市を拠点に活動する絵本作家による絵本を原作とした演目「ぼくはおくりもの」を 5 公演行いました。来場者は 744 人（大人 425 人、子ども 243 人、招待 76 人）でした。

- ・子ども未来エンゲキ部

市民参加型ワークショップ「子ども未来エンゲキ部」では、12/14（土）、15（日）に劇中で使用する舞台美術と劇中歌の歌詞づくりの2つのワークショップを実施しました。

- ・市民創作ゼミ

演劇のビジュアルワーク（舞台美術や衣装、ヘアメイクなど）のプランをつくる講座を1～3月の3か月にわたって開催しました。参加者は高校生～50代と幅広く、演劇活動をしている方だけでなく、服飾関係者、美術に関心のある方など、様々なバックグラウンドを持つ市民が参加しました。

## **2. 文化芸術の活動や発表の場の充実**

### **①市内公共施設や公共スペースの活用**

#### **■公共スペースの活用**

- ・財団が、女性総合センター・アイムでのコンサートや、地域学習館などを活用して「どこでもステージ」として落語会やクラシック、ジャズなどを企画しました。

#### **■旧多摩川小学校**

- ・旧多摩川小学校有効活用事業においては、平成27年度から「たちかわ創造舎」が、「インキュベーション・センター事業」「フィルムコミッション事業」「サイクル・ステーション事業」とともに、「交流等文化創出事業（コミュニティ・デザイン事業）」として演劇など多様な文化創造活動を展開しました。
- ・インキュベーション・センター事業として旧多摩川小学校の3Fに入居するアーティストたちが、地域に文化芸術体験を提供する取組として、そーぞーたいけんワークショップ、ほうかごシアターなどのプログラムを開催しました。
- ・ほうかごシアター

7月「こだぬききょうだいのときつねのコンたろう」、3月「こだぬききょうだいのおつかい」を上演（30分程度）。

- ・そーぞーたいけんワークショップ

8月「からだそうぞう探検!」、10月「子どもをかわいく かっこよく 自然に撮る!写真ワークショップ」、12月「色遊びでクリスマスツリーをつくろう!」、1月「あっ!大きくなっちゃった!大きな人形を作ってあそぶワークショップ」を開催。

## ■子ども未来センター

- ・子ども未来センターでは、指定管理者と石田倉庫のアーティストが連携して、「子ども未来センター美術部」を11月と2月に、「カッティングシートで子ども未来センターを飾っちゃおう」を8月と11月に行いました。その他にも、「まんが絵の描き方教室」、「ヴァイオリン初心者入門講座」、「演劇ワークショップ」、「留学生まんがワークショップ」など計75回の文化芸術講座を開催しました。

## ②民間施設の文化芸術活動への活用推進

### ■サンクタス立川ギャラリー

- ・緑町にあるマンション「サンクタス立川」の西側壁スペースを、管理組合の協力を得て、ギャラリーとして貸し出しています。令和6年度は申請がありませんでした。

成果指標	基準値 平成25年度末	計画策定時 平成30年度末	令和6年度末	目標値 令和6年度末
日ごろから文化芸術に触れる機会があると思う市民の割合	38.4%	46.1%	52.1%	52.0%
財団が展開する文化芸術事業への来場者数	47,500人※	73,640人	86,691人	81,000人
たましんRISURUホールと子ども未来センターの来場者数	701,044人※	793,211人	580,716人	830,000人
市民文化祭、地域学習館まつり来場者数	30,807人	29,031人	18,594人	35,000人

※平成26年度の値を使用（平成25年度はたましんRISURUホール（立川市市民会館）の休館期間があったため）

## Ⅱ はぐくむ、ささえる～子どもや若者の感性を育む、アーティストを支援する～

だれもが文化芸術に触れる場や機会を充実させるとともに、アーティストやボランティアなど文化芸術活動のづくり手や支え手の人材育成・支援に取り組みます。

### 1. だれもが文化芸術に触れる機会の創出

#### ①子ども対象文化芸術事業の充実

##### ■小学校ファーレ立川アート鑑賞教室

- ・財団が、ファーレ立川アート鑑賞教室を実施。市民ボランティア団体のファーレ倶楽部が、市内全小学校の5年生にアート作品を案内しました。

##### ■小・中学校訪問事業等

- ・財団が、小学校訪問事業として、音楽（20校）、落語（15校）、ダンス（3校）、アート（1校）、のプログラムを実施するとともに、小学生、中学生吹奏楽クリニックや小学校演劇体験事業「ウラシマコタロウ」を実施しました。

##### ■キッズ・ワークショップ等

- ・財団が、「たちかわワークショップフェスタ 2024」を開催するとともに、東京文化会館と連携し、0歳から大人まで楽しめるミュージックワークショップを2/8（土）・9（日）に開催しました。

##### ■キッズ伝統芸能体験

- ・財団が、東京都などと連携し、世界と向き合う子どもたちのチカラとなる大切なものがつまっている日本の伝統芸能との出会いをつくるプログラムとして、10月～3月の期間にキッズ伝統芸能（箏曲）を開催しました。

#### ②学生・若者・障がいがある方等の文化芸術活動への参加促進 【重点取組事項】

##### ■立川市民オペラのゲネプロ見学会

- ・令和7年3月に行われた「立川市民オペラ 2025」の本番前日の3/21（金）に若い世代にオペラに触れてもらうことを目的に、財団が青少年のためのゲネプロ見学会を開催しました。

#### ■国立音楽大学との協定による各種事業

- ・学生の文化芸術活動支援や市民への文化芸術に触れる機会の創出等のため、市と連携協定を締結している国立音楽大学の協力により、同大学の学生やOBによる各種演奏会や中学校の音楽鑑賞教室、講演会などの事業を行いました。

#### ■アール・ブリュット立川

- ・障がいのある人もない人も共に暮らしやすい立川を理念に掲げて活動しているアール・ブリュット立川実行委員会への支援を行いました。

## 2. 文化芸術の担い手の支援

### ①文化芸術に関わる人材・ボランティアの育成

#### ■文化芸術のまちづくり協議会実施講座

- ・文化芸術のまちづくり協議会が、アートを応援して支える市民を育てる「アートサポーター養成講座」を実施。令和6年度は「立川市のアートを知って応援しよう」を目的に、「まち全体が美術館！立川アートマップツアー」と題し、立川アートコレクションに掲載されているアート作品をガイド付きで巡りました。

### ②アーティスト活動の支援

#### ■たちかわ創造舎のインキュベーション・センター事業

- ・たちかわ創造舎（旧多摩川小学校）の3Fオフィスフロアに、6団体が在居しています。演劇やダンス、舞台芸術やチョークアートなど、たちかわ創造舎を拠点として活動を展開しています。

#### ■多摩フレッシュ音楽コンサート

- ・東京多摩公立文化施設協議会主催の「多摩フレッシュ音楽コンサート」を財団が実施しています。令和4年度から「ピアノ部門」と「声楽部門」を隔年での開催に変更し、令和6年度は7/11（木）に「ピアノ部門」を実施しました。また、令和5年度の最優秀賞受賞者が11/3（日）にソロリサイタルを行いました。

■文化芸術のまちづくり事業補助金

- ・9/27（金）に選定委員による審査会を開催し、申請した8団体のうち、4団体に補助金を、3団体に奨励金を交付決定しました。

■水曜コンサート

- ・財団が実施する、たましん RISURU ホール（立川市市民会館）の水曜コンサートに国立音楽大学の学生や若手アーティストに出演していただきました。

成果指標	基準値 平成 25 年度末	計画策定時 平成 30 年度末	令和 6 年度末	目標値 令和 6 年度末
財団が展開する子ども対象事業と子ども未来センターの文化芸術支援事業の参加者数	2,999 人※	9,012 人	6,705 人	10,000 人
文化芸術活動ボランティア登録者数	101 人	139 人	208 人※※	160 人
財団が展開する事業のうち学生による公演数（累計）	35 回	145 回	188 回	260 回
文化芸術のまちづくり補助金補助対象事業数（累計）	36 事業	65 事業	107 事業	100 事業

※平成 26 年度の値を使用（平成 25 年度はたましん RISURU ホール（立川市市民会館）の休館期間があったため）

※※ファーレ倶楽部：44 人、財団：140 人、まちづくり協議会市民ライター：24 人

### Ⅲ つたえる、とどける～文化芸術の意義を伝えていく～

文化芸術活動の継続的発展やまちの魅力向上を目指し、文化芸術に関する情報の積極的な発信、文化財保存や伝統文化の継承支援等に取り組みます。

#### 1. 文化芸術を活用し、広く発信する取組

##### ①文化芸術資源を生かしたシティプロモーションの展開

###### ■ファール立川アート保全・活用事業

- ・街区のビル所有者や市民団体のファール倶楽部、市などで構成するファール立川アート管理委員会が、「ファール立川アート 保全・活用方針」（平成 28 年 3 月）に基づき作品の維持・保全を行いました。
- ・ファール倶楽部が「ぴかぴかアートプログラム」を開催し、一般市民を募集してアート作品の清掃活動とあわせてファール立川アートの作家によるワークショップを年 2 回実施しました。
- ・ファール立川アートのブランド価値の向上や国内外への情報発信等を目指し、街区を美術館に見立てた複合イベント「ファール立川アートミュージアム・デー」を 10/11（金）～14（月・祝）に開催しました。令和 6 年度はファール立川アートの設置から 30 周年を記念した事業と位置づけ、30 周年記念セレモニー&シンポジウム「ファール立川アートの 30 年」として、アートディレクター・北川フラム氏による基調講演とパブリックアートの有識者によるパネルディスカッションを行いました。そのほかファール立川アートをモチーフにしたグッズを作成し、販売しました。同イベントでは、企画展、アートツアー、ワークショップ等を催し、ファール立川アートの周知、シティプロモーション、各メディア対応等に取り組みしました。
- ・その他、パンフレット、関連グッズなどを活用した周知などに取り組みしました。

###### ■立川まんがばーく

- ・指定管理者の特徴的な自主事業である令和 6 年度の立川まんがばーくの利用者数は、75,252 人でした。コロナ禍以前の利用者数より少ないものの新型コロナウイルス感染症による活動自粛の流れは徐々に薄れ始め、令和 5 年度と比較すると 5,256 人の増となりました。



## ②事業者・民間イベント等との連携

### ■国立音楽大学ブラスオルケスター スペシャル・コンサート

- ・国立音楽大学との連携協定に基づき、国立音楽大学・株式会社立飛ホールディングス・市の三者の共同主催で、立川市在住、在学、在勤の方を対象とし、子どもから大人まで楽しめる演奏会を9/26（木）に実施しました。

### ■立川よいと祭り

- ・第36回を数える立川よいと祭りについては、市が実行委員会を助成するとともに、協働事務局を財団が担っています。令和6年度は前年度同様10月に開催し、約100,000人の来場者がありました。

## 2. 文化財・伝統文化を伝え、生かす取組

### ①文化財・伝統文化の継承、市史の編さん【重点取組項目】

#### ■市史編さん事業

- ・先史、古代・中世、近世、近代、現代、民俗・地誌の6部会が、巡見や資料の調査・収集、古老や関係者からの聞き取りにあたり、成果として資料編「近代1」と「現代2」を刊行し、市役所本庁舎、歴史民俗資料館及び市内一部書店で頒布しております。
- ・事業の周知については、9月と3月に広報紙「たちかわ物語」を発行し、市施設の窓口等に配架するとともに市ホームページに掲載しました。
- ・講演会については、3/2（日）にたましん RISURU ホールにて「立川のまちづくりをふりかえる」を共通テーマとして開催いたしました。実施したアンケートでは好評のご意見を多数いただきました。
- ・2月～3月に、立川市役所とたましん RISURU ホールにて、「昭和から令和へ…まちの鼓動と変貌」という市史関連展示（写真展）を開催し、市民への周知に努めました。

#### ■歴史民俗資料館・古民家園

- ・歴史民俗資料館・古民家園等で、体験学習会や講演会を20回、企画展・写真展等を14回開催しました。また、市民団体との連携事業や出張講座等を17回開催しました。

## ■伝統文化親子教室事業支援

- ・お囃子や伝統芸能などの市民団体 14 団体に対し、東京都の伝統文化親子教室事業補助金の申請支援をしました。

## ②文化財・市史編さん資料の保存・活用方法の検討

### ■文化財

- ・文化財の把握から調査により指定・登録を図り、保存、活用のための措置や支援を行うとともに、地域の歴史や伝統文化に触れる機会の充実を図りました。
- ・指定文化財の保護事業として、平成 31 年度から令和 6 年度にかけ、国、都、市が補助金を交付して支援した普濟寺所有の国宝六面石幢の防災移設ならびに保存修理が終了し、新保存庫内への移動が完了しました。あわせて、市指定文化財の普濟寺保存の板碑について、適切な保存を図るための保存箱を購入する支援を行いました。
- ・文化財保存団体育成事業費補助金交付制度で、獅子舞芸能保存会と西砂川松明伝承保存会の 2 団体に助成（無形民俗文化財の保存継承を目的として）を行いました。

成果指標	基準値 平成 25 年度末	計画策定時 平成 30 年度末	令和 6 年度末	目標値 令和 6 年度末
ファーレ立川アートツアー参加者数※	1,811 人	2,311 人	2,283 人	2,700 人
ファーレ立川アート管理委員会 ホームページアクセス数（年間）	11,619※※	31,778	48,286	35,000
立川市地域文化振興財団 ホームページアクセス数（年間）	181,609	149,976	188,198	165,000
歴史民俗資料館収集資料点数	13,119 点	16,589 点	18,799 点	17,200 点

※ファーレ倶楽部が主催するアートツアーの参加者を含む。

※※平成 27 年度の値を使用（平成 27 年度に開設したため）。

## IV つなげる、ひろげる～文化芸術の波と輪を広げていく～

文化芸術活動の発展を目指し、さまざまな連携とネットワーク化等に取り組みます。

### 1. 文化芸術のネットワークを広げ、つなげる取組

#### ①多様な主体や他の分野との連携・交流の促進

##### ■文化芸術のまちづくり協議会自主事業

・立川文化芸術のまちづくり協議会が、文化団体、大学、企業、地域、行政間の交流及び連携強化を目的とし、令和5年度にプレ開催を行った「文化芸術のまちづくりダイアログ」が好評を得たため、令和6年度は7/15（月・祝）と3/20（木・祝）に開催しました。1回目は「文化芸術団体が活動する場 ～街とのコラボレーションを考える～」と題して、株式会社立飛ストラテジーラボ、国営昭和記念公園の職員をお招きし、たましんWinセンターで行いました。14団体27名が参加し、活動の場として昭和記念公園やグリーンスプリングスを利用する場合の考え方について伺い、意見交換を行いました。2回目は「子どもたちへアート体験を提供する団体・個人、大集合！」と題して、ルミネ立川店9F ルミネラウンジで行いました。12団体20名が参加し、ゲストは置かず、「今の子どもたちに届けたいこと」、「運営体制の悩み」といった5つのトークテーマを設定し、参加者同士のディスカッションを通じて、それぞれのアイデアを深めました。

##### ■たちかわ創造舎

・たちかわ創造舎が関わる市内および多摩エリアでの事業に、シェアオフィスメンバーがそれぞれの得意分野を生かした内容で関わるなど、文化芸術を通して地域の中での活動を展開しています。また、例年10月に行なわれている「たまみら子どもまつり」では、ほうかごシアター・スペシャルとして佐野洋子の絵本作品を舞台化した『ねこ！ネコ！猫！～佐野洋子の絵本より～』を上演するなど、文化芸術の発信拠点として地域連携を図りました。

■立川いったい音楽まつり

- ・市民が中心の実行委員会で運営する音楽イベントで、財団が事務局を担っています。

②文化芸術に関わる情報のプラットフォームづくり

■文化芸術のまちづくり協議会ホームページ

- ・文化芸術のまちづくり協議会が、文化芸術情報の収集と発信を目的として平成 26 年度に立ち上げたホームページ「TACHIKAWA BILLBOARD」を通じて、立川市とその周辺地域の文化芸術情報を発信しました。イベントレポートや各分野で活躍するアーティスト、アトスペースなどを紹介する記事を掲載しています。
- ・市民ライターとして 24 名の方に登録を頂いており、令和 5 年度の月平均 4 本程度から 10 本程度へと取材・サイト上で掲載数が格段に向上し、これまで以上に活発な情報発信を行いました。

成果指標	基準値 平成 25 年度末	計画策定時 平成 30 年度末	令和 6 年度末	目標値 令和 6 年度末
立川いったい音楽まつり 応募団体数	126 団体	357 団体	519 団体	500 団体
まちづくり協議会 ホームページアクセス数 (年間)	3,411	7,071	40,000	10,000